

であう。つながる。ひろがる。



同志社大学ボランティア支援室

活動報告書

2021



同志社大学 学生支援センター

ボランティア支援室

Support Office for Student Volunteer Activities



ボランティア支援室長
下楠 昌哉

本学は創立以来、建学の精神である「良心教育」において、知育・体育とともに、キリスト教に基づく徳育を重視しています。その徳育の一環として、学生によるボランティア活動を積極的に支援し、学生の自主性・社会性・奉仕の精神を育み、市民社会の一員としての自覚を促すことを目的に、2016年4月にボランティア支援室を開設し、今年で6年目を迎えました。

本学ではボランティア支援室開設前から、学生が地域社会において異なる世代や立場、価値観などにふれる機会を提供することを目的に、さまざまな正課外プログラムを実施してきました。こうした従来からの取り組みを活かし、ボランティア支援室では「地域連携」を一つの柱とし、ボランティア情報を収集して提供し、実際の活動への参加を促し、必要に応じて助言を与えています。また、セミナーや講座の開催、さらに、学内外のボランティア団体等との連携・協力によりネットワークを構築し、学生のボランティア活動の選択肢を広げ、地域社会と大学をボランティアの心でつなぐことを目指し、日々取り組んでいます。

2021年度も新型コロナウイルス感染症の影響を受け、一部計画の変更をせざるを得ない状況となりましたが、これまでの経験を踏まえたオンラインでの活動を主としつつ、可能な範囲で対面活動を実施しました。

「地域連携」に関わる基幹事業「同志社つながる@カフェ」「たなしる」については対面実施にこだわり、参加学生の次のアクションを意識した情報の選定や伝え方を意識し、企画を行いました。いずれのものも学生の関心は高く、この事業の企画・運営を担った学生スタッフ ARCO メンバーにとっても手ごたえのある取組となりました。また2020年度からスタートした異世代間交流企画「エールプロジェクト」では、学生が地域のお年寄りや子どもたちとの手紙や交換ノートを通じて、地域や地域住民に関心を寄せる機会を提供することができました。さらにフードバンク京田辺の協力を得た食品配付会を今年度は4回実施しました。この取り組みは単に食品を配付することが目的ではなく、食品配布の準備を手伝う体験的なボランティアとセットにしたことにより、ボランティアやフードバンクの取組の意義、フードロスについて考える機会の提供となり、より広い層へアプローチする場と捉え、今後も継続していきたいと考えています。

2021年度は、コロナ禍による対面授業の減少等を受け休止していた ARCO による窓口でのボランティア相談を再開しました。近年は、ARCO のスタッフ同士で対応の練習をしており、地域の方の情報交換の場に積極的に参加するなど、学生目線での情報収集や関係作りを意識して行うようになりましたが、スタッフ自身のボランティア経験の少なさを課題としており、今後はスタッフにも様々なボランティアへの参加を促していきたいと考えています。2016年4月の設立以来、ボランティア支援室には学外のボランティア団体から多くの情報が寄せられ、2021年度末現在でボランティア支援室に登録された団体数は276となりました。1人でも多くの学生がボランティア活動に携わるきっかけを提供できるよう、学生スタッフとともにボランティア支援室の活動を充実させていきたいと考えています。

目 次

1. ボランティア支援室長 挨拶	1
2. ボランティア支援室について	
理念・目的／組織体制／活動内容	3
ボランティア支援室主催事業 2021 年度	4
相談対応（ボランティアコーディネーション）について／学生来訪者（学生相談受付シート）の内訳／	
学生スタッフ ARCO によるシフト対応	5
■ ボランティア支援室学生スタッフ ARCO	
学生スタッフ ARCO とは／代表挨拶／ 2021 年度活動実績	6
新歓説明会（今出川）／ブラアルコ～ ARCO の活動を通じて見る地域の魅力～	7
ARCO 新聞／ ARCO 通信／ヒアリング活動	8
ARCO 説明会・ ARCO 相談会（京田辺）／京田辺まちめぐり／そうだ、京田辺を探検しよう！	9
プラタナ 大学周辺って何があるの？～ ARCO と一緒に京田辺を歩いてみよう！～／	
ARCO 京田辺魅力発見マップ作成	10
3. ボランティア支援室実施・参加事業	
■ 地域連携・活性化	
同志社つながる@カフェ	11
たなしる	12
エール交換レタープロジェクト（今出川）	13
エール交換ノートプロジェクト（京田辺）	14
フードバンク食品配付会／和束のお茶を守ろう！茶畑ボランティア	15
■ 福祉・環境	
ARCO 研修	16
■ 子ども	
ぼんぼん夏まつり	16
ボランティア体験～子ども×ボランティア～／がいこくごであそぼう～あつまれ世界のおともだち～	17
■ 災害・防災・復興支援	
【防災事業第一弾】防災講座～今こそ「備える」ことを考えよう～／	
【防災事業第二弾】防災講座～熊本から学ぼう！災害とボランティア～／	
【防災事業第三弾】V-NET 合同企画キャンパスで地震が起きたらどうする？	18
【防災事業第三弾】知らなくても大丈夫？～クイズで学ぶ防災・キャンパス ver. ～／	19
■ 講演会、講習、セミナーなど	
スキルアップ講座 Vol.9 WITH コロナでのグループ運営とコミュニケーションのコツ	19
4. 同志社ボランティアネットワーク	
■ V - N E T	
同志社ボランティアネットワークとは／ボランティアサークル徹底比較会 in2021 合同オンライン説明会（今出川）／	
同志社ボランティア合同新歓フェア（京田辺）	20
ボランティア団体合同交流会（京田辺）／V-NET 企画～これできみもなんでも博士！～ワクワク研究所！	21
同志社大学京田辺校地ボランティア団体交流会／V-NET 企画 超作戦会議～掴め！新歓成功へのカギ～	22
（今出川）国際居住研究会／STUDY FOR TWO 同志社大学支部／学生団体 CHAD	23
学生団体 LUCKY／ASUVID 今出川／同志社ヒーローショー同好会	24
同志社ワーキングコーラス／Shinmachi Activate Project (SAP)／同志社 FAST／そら	25
（京田辺）スポーツボランティア団体 Egg／Global Baton for Ishinomaki／PAZ MUSICA／	
ASUVID 京田辺	26

ボランティア支援室について

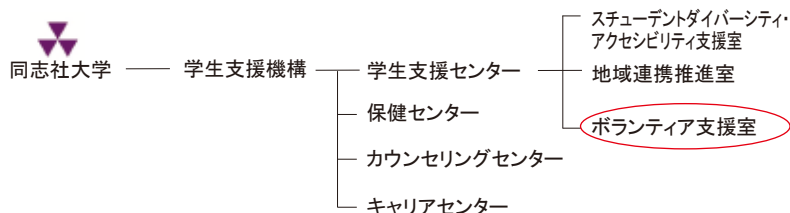
理念・目的

同志社大学は創立以来、建学の精神である「良心教育」において、知育・体育とともに、キリスト教にもとづく徳育を重視してきました。その徳育の重要な一環として、学生によるボランティア活動を積極的に支援することにより、学生の自主性、社会性および奉仕の精神を育むとともに、市民社会の一員としての自覚を促すことを目的として、2016年4月に開設しました。

ボランティア支援室は、学生の成長への支援と同時に、その活動を通じて、大学が地域社会の一員としての責任に応えていくことを念頭に活動します。

組織体制

ボランティア支援室は、課外プログラムや学生生活上の補助を行うことで、学生生活を主体的に送れるようサポートしている学生支援センターの中に位置づけられています。また、ボランティア支援室に関する基本的事項を審議するため、ボランティア支援委員会を設置しています。ボランティア相談の対応やボランティアプログラムの実施等においては、ボランティア支援室の職員及び、両校地の学生スタッフ ARCO が企画・運営しています。



ボランティア支援委員 (2022年3月現在)

氏名	役職
下楠 昌哉	ボランティア支援室長 (委員長)
越後屋 朗	キリスト教文化センター所長
永田 祐	社会学部 教授 (学識経験者)
服部 篤子	政策学部 教授 (学識経験者)
井上 真琴	学生支援機構事務部長
徐 啓和	今出川校地学生支援課長
利田 吉弘	京田辺校地学生支援課長

ボランティア支援室 (2022年3月現在)

氏名	役職
大澤うらら	今出川校地学生支援課 係長
河合 良彦	京田辺校地学生支援課 係長
古舘美由紀	今出川校地学生支援課
古川 博康	今出川校地学生支援課
高橋あゆみ	今出川校地ボランティアコーディネーター
竹村 光世	京田辺校地ボランティアコーディネーター

ボランティア支援室学生スタッフ ARCO (2022年3月現在)

今出川校地		京田辺校地	
代表	1名	代表	1名
副代表	2名	副代表	1名
メンバー	12名	メンバー	14名

活動内容

● ボランティア情報の収集及び学生への情報提供

ボランティア情報を収集のうえ整理し、ボランティア活動を希望する学生に対して、希望する活動内容に応じた情報提供を行います。

● ボランティア活動への学生の参加促進

ボランティア活動希望学生とボランティア先のコーディネートや、学生のボランティア参加を促すことを目的とした体験的なボランティアや講演会の企画などを行います。

● ボランティア活動に参加する学生への助言と支援

学生がボランティアに参加するに際して必要な助言や支援を行います。

● ボランティアセミナー、講習会等の実施

ボランティア活動を始めたい学生や、ボランティアに関するスキルアップを目指す学生のために、様々なセミナー、講演会などを開催します。

● 学内外のボランティア団体等との連携・協力

学内外の関連団体や地域の方々とのネットワークを構築し、学生にとっての活動の場を広げるとともに、地域社会における様々なボランティア活動の、振興の一助となることを目指します。

(関西地区大学ボランティアセンター連絡協議会 / 大学間連携災害ボランティアネットワーク / 大学のまち京都 災害ボランティアに係るパートナーシップ)

ボランティア支援室主催事業 2021 年度

月日	企画名称	参加者数	場所	実施主体
4/10、5/8	同志社ボランティア合同新歓フェア	40 (22、18)	Zoom	V-NET京田辺
4/14、4/16	ボランティアサークル徹底比較会in2021合同オンライン説明会	延べ76	Zoom	V-NET今出川
5/25	第2回フードバンク食品配付会	配付58	[京]多目的ホールラウンジ	支援室
6/19	ボランティア団体合同交流会	24	Zoom	V-NET京田辺
6/27	[体験ボランティアプログラム] 第11弾 和束のお茶を守ろう!茶畑ボランティア	5	京都府相楽郡和束町	支援室
7/15	第20回同志社つながる@カフェ ～そうだ、地域に出よう@コミュニティカフェ～	10	[今]寒梅館地下A会議室	支援室 (運営:ARCO(今))
7/21	夏ボラ!	10	[京]多目的ホールラウンジ	支援室
7/21	第3回フードバンク食品配付会	配付58	[京]多目的ホールラウンジ	支援室
2021/7～ 2022/1	エール交換ノートプロジェクト	学生11 子ども11	京田辺市在住の地域の小学生を対象に実施	支援室
8/5	第4回たなしる～たなふく～	10	さんさん山城	支援室 (運営:ARCO(京))
9/1	[防災事業第一弾]防災講座 ～今こそ「備える」ことを考えよう～	10	Zoom	支援室
8/29	V-NET企画～これできもなんでも博士!～ ワクワク研究所!	学生2 小学生2 V-NET7	Zoom	V-NET京田辺
2021/10～ 2022/1	エール交換レタープロジェクト	学生13 高齢者18	上京区在住の地域の方を対象に実施	支援室
10/23	[防災事業第二弾]防災講座 ～熊本から学ぼう!災害とボランティア～	5	Zoom	支援室
11/6	[防災事業第三弾]V-NET合同企画 キャンパスで地震が起きたらどうする?	10 V-NET8	[京]京田辺キャンパス内	V-NET京田辺
11/6	[体験ボランティアプログラム] 第12弾 和束のお茶を守ろう!茶畑ボランティア	6	京都府相楽郡和束町	支援室
11/11	秋ボラ!	7	[京]日糧館会議室	支援室
11/11	第4回フードバンク食品配付会	配付51	[京]日糧館会議室	支援室
12/6	[防災事業第三弾]知らんくても大丈夫? ～クイズで学ぶ防災・キャンパスver.～	参加学生4 同志社FAST6	[今]寒梅館地下A会議室	支援室・同志社FAST
12/8	同志社大学京田辺校地ボランティア団体交流会	25	[京]新別館第10会議室	V-NET京田辺
12/9	第21回同志社つながる@カフェ 「知ろうよ!京の文化と地域の魅力～まると美術館～」	7	[今]寒梅館地下A会議室	支援室 (運営:ARCO(今))
1/14	冬ボラ!	11	[京]成心館204会議室	支援室
1/14	第5回フードバンク食品配付会	配付45	[京]成心館204会議室	支援室
3/8	スキルアップ講座Vol.9 WITHコロナでのグループ運営とコミュニケーションのこつ	18	Zoom	支援室
3/10	V-NET企画 超作戦会議 ～掘め!新歓成功へのカギ～	15	[京] 新別館第10会議室	V-NET京田辺
3/15	第5回たなしる～茶なしる	2	もどり場だんだん みんなのお家	支援室 (運営:ARCO(京))

相談対応（ボランティアコーディネーション）について

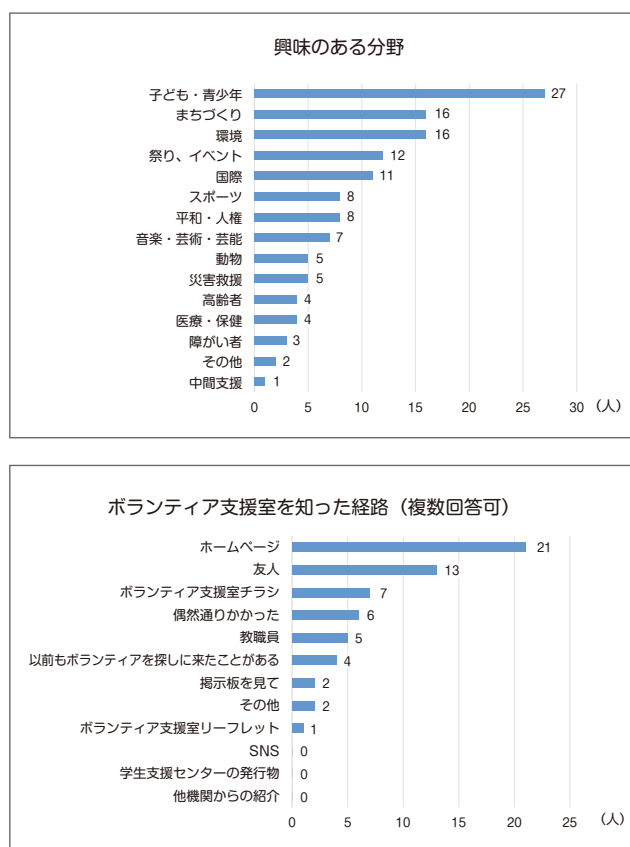
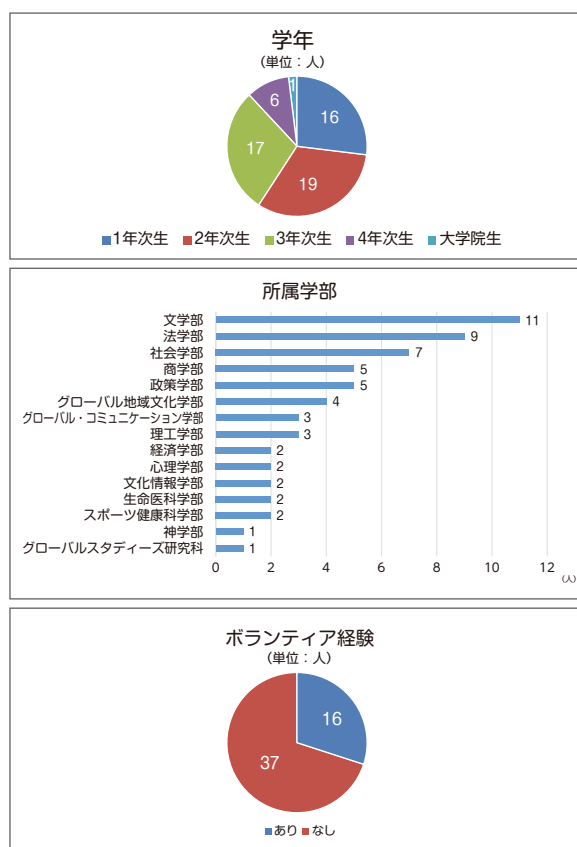
昨年度に引き続き、コロナ禍におけるボランティア活動への参加の検討や、参加する際の注意事項について説明しながらも、何かしたい学生の想いを大事に、ボランティア支援室では、各校地の窓口にて、相談対応を行いました。

新年度がスタートした4月は学年問わず来室があり「教職を取っているので教育関係のボランティアに参加したい」「コロナ禍で他の人とあまり交流ができなかったため、学内で活動できるボランティアに参加したい」などと、様々な相談が寄せられました。

また、学生以外に、ボランティア募集を希望される団体の方からの相談にも応じています。2021年度末現在のボランティア団体登録数は276団体となり、2021年度の新規団体登録数は18団体となりました。

学生来訪者（学生相談受付シート）の内訳（来訪者数：59名）

ボランティア支援室では、相談者に応じたボランティア活動をコーディネートできるよう「学生相談受付シート」にて情報を把握し、ボランティア支援室内で共有しています。2021年度の来訪者数は59名と、新型コロナウイルス感染症の感染拡大前の実績に近い水準まで徐々に戻り始めている状況です。2021年度も2020年度同様に対面での活動が難しい時期もありましたが、大学として徐々に活動制限が緩和されたことで、ボランティア活動への参加を検討する学生も増え、特に1・2年次生の来室が例年に比べて増えたことが特徴的な点としてあげられます。



学生スタッフ ARCO によるシフト対応

コロナ禍において、対面授業の減少により、今出川校地の ARCO が行っていた窓口相談対応（シフト）を休止してきましたが、秋学期より試行的にでも取り組みたいという ARCO の声を受け、シフト活動を再開しました。また、京田辺校地の ARCO はこれまでシフト活動を行っていませんでしたが、京田辺のボランティア支援室窓口移転に伴い、新たな取り組みとしてスタートしました。

（シフト活動の主な内容）

- ・ ボランティア相談対応
- ・ ボランティア募集チラシの内容を確認・情報整理、チラシラックや掲示板の整理
- ・ ボランティア資料室の ARCO と縁が深い地域団体の情報発信（今出川）
- ・ 京田辺市で活動する地域団体の情報整理・発信（京田辺）



学生スタッフ ARCO とは

「地域と共に」をスローガンに、同志社大学生のボランティア活動への参加促進を目的として、地域やボランティア情報の発信・紹介や、イベント等の企画・運営などを行っています。

代表挨拶

ARCO（今出川）代表 政策学部政策学科2年次生 矢野 美咲

2021年度は2020年度に引き続き、コロナ禍の影響を受けながらも、試行錯誤しながら活動を行いました。基幹事業の@カフェを始め、感染対策を行い、企画を対面で実施することができ、地域やボランティアの魅力をメンバーが学生に直接伝える機会が増えました。メンバーにとっても、より自分達が地域の方と学生を繋いでいく役割を担っていると実感できたのではないかと思います。

今後もコロナ禍に柔軟に対応していきながら、地域、ボランティアについて学び、地域と学生が繋がれるような活動を続けたいと思います。

ARCO（京田辺）代表 心理学部心理学科4年次生 小泉 風花

今年度は、ARCO（京田辺）にとって大きく変わった1年でした。在籍する人数が倍以上に増えたため、昨年度よりも活動の幅が広がりました。初年度から続けていたことに加えて、新しい試みであったボランティア体験イベントやボランティアコーディネートなどさまざまなことにも挑戦しました。目標に掲げていた既知団体とのイベント、そしてマップ作成を通して、新しい団体とも関係を築くこともできました。

昨年度に比べて今年度はオンラインの活動だけでなく、感染症対策を実施しながら対面活動も十分行うことができたため、イベントからミーティングまでコミュニケーションが取りやすい環境を作れたと感じます。

2022年度はボランティアの魅力を学生に伝えられるように、ARCOの学生スタッフ一人ひとりがより積極的にボランティアに参加する、また構想段階にあるイベントをより良い形で打ち出せるように準備をし、邁進して参ります。

＝ 学生スタッフ ARCO 2021年度活動実績 ＝

月日	タイトル・内容	参加者数	場所	実施主体
4/12～14、4/20～22、 4/26、5/6、7、10	オンライン募集説明会（計10回）	35	Zoom	今出川
4/10、22、27 5/8、13、25	ARCO説明会	15	Zoom及び京田辺校地新別館第10会議室	京田辺
4/12～16、 5/10～14、5/17～21	ARCO相談会	3	Zoom	京田辺
4/14、5/14、5/21	京田辺まちすごろく	6	Zoom及び京田辺校地多目的ホール	京田辺
4/18、24	そうだ、京田辺を探検しよう！	6	近鉄新田辺駅～防賀川周辺、京田辺校地周辺	京田辺
4/17、18	ブラアルコ～ARCOの活動を通じてみる地域の魅力～	5	Zoom及び今出川校地周辺	今出川
4/24	ボラARCO～ARCOがボランティアを紹介します～	4	Zoom	今出川
7/11	ぼんぼん夏まつり	学生4 小学生13	Zoom	今出川
7/26	ARCO新聞第4号発行	-		今出川
8/12	ARCO研修（京田辺）「ボランティア体験」に参加（ボランティア支援室職員が実施）	13	「三休」の畑	京田辺
10/30	プラタナ 大学周辺って何があるの？～ARCOと一緒に京田辺を歩いてみよう！～	4	JR京田辺駅～一休寺周辺	京田辺
11/20	ボランティア体験～子ども×ボランティア～	7	龍馬館周辺	京田辺
12/19	がいこくごであそぼ～あつまれ世界のおともだち～	子ども6 学生6	寶幢寺	今出川
2021/6～2021/9	ARCO（今出川）で繋がりのある方のヒアリング活動（計7人）	-	Zoom及び今出川校地周辺	今出川
2021/6～2022/3	ARCO京田辺魅力発見マップ作成 ヒアリング・制作（計10団体）	-	Zoom及び京田辺校地	京田辺

新歓説明会（今出川）

【学生レポート】活動報告・感想

社会学部社会学科3年次生 齋藤 恭寛

今年も ARCO はオンラインで説明会を行いました。昨年に続き、説明会の運営を担当する中で、去年の説明会は ARCO では初のオンラインの活動であったこともあり、オンラインの難しさに頭を悩ます機会が多々ありました。しかし、コロナ禍になってからの1年間、オンライン活動を重ねてきたこともあり、今年は説明会の質は維持したまま、去年に比べ準備期間も大幅に短縮することができました。また次年度にもつなげるため、多くの ARCO メンバーが運営側として参加できるような仕組み作りにも取り組みました。このような取り組みの成果が実り、いつもの活動以上に参加者がいる本番中も臨機応変な対応を取ることができ、無事活動を終えることができました。



ブラアルコ～ ARCO の活動を通じて見る地域の魅力～



【学生レポート】活動報告・感想

経済学部経済学科2年次生 山本 雨音

新歓イベント「ブラアルコ～ ARCO の活動を通じて見る地域の魅力～」では、新入生に同志社大学周辺地域を紹介しました。このイベントは、新入生に地域について知ってもらうことで新生活への不安を払拭することを目的として、二日間に分けて開催しました。街歩きをすることをコンセプトとしているため対面での開催を主に想定していましたが、コロナ禍の企画ということでオンラインでの開催ができる準備も並行して行いました。当日は、天候の影響で一日目はオンライン、二日目は対面での開催となりました。対面・オンライン共に準備を進めるのは大変でしたが、両日共に地域の魅力を伝えることができたので、頑張った甲斐があったと感じています。

【学生レポート】活動報告・感想

政策学部政策学科2年次生 関本 直樹

本企画は大学周辺には様々なボランティアがあることを参加学生に知ってもらうべくコロナ禍によるオンライン実施という制約の中で開催したイベントです。私たち自身がオンラインでの活動に慣れていないこともあり、準備の遅れや魅力が着実に伝わるか等の対面とは異なった非対面ならではの困難が多々ありました。それでも、過去に参加したことのあるメンバーの体験談を交え、紹介するボランティアの種類を多くして雑談の時間を設けるなどの工夫を凝らすことで当日は一方的な説明ではない、参加者も気軽に話せる全体の雰囲気が出るイベントとなりました。また、ARCO としても新たなボランティア団体との繋がりができたので、その意味でも充実したイベントでした。

【学生レポート】参加者感想

法学部法律学科1年次生 新留 真子

私はもともとボランティア活動が好きで、ボランティアについて調べるうちに ARCO がボランティア活動の紹介を行っていると聞いて興味を持ち、ボラ ARCO に参加させていただきました。大学に入学して初めて京都に来たので、どのようなボランティアがあるのかや参加方法など分からないことばかりでとても不安だったのですが、ARCO の先輩方が優しく教えてくださり、ARCO のことやボランティアについて詳しく知ることができてよかったです。これからも様々なボランティアに参加してみたいと思わせてくれる企画でした。

ARCO 新聞

【学生レポート】活動報告・感想

文学部国文学科3年次生 山崎 郁香

私たちは昨年度に引き続き、ARCO 新聞を発行しました。今回の ARCO 新聞では、なかなか大学の外に出て行く機会が無い学生に上京区やボランティアの魅力を伝えることを目的に、京菓子資料館、京都御苑、大学周辺のパン屋の紹介と、ARCO メンバーのボランティア体験記を掲載しました。京菓子資料館への取材は、Zoom を用いての実施となり、短い時間ではありましたが、京菓子の魅力や、京菓子と人々の暮らしとの繋がり、上京区との繋がりなど、たくさんのお話を聞かせていただきました。

昨年度よりもボリュームアップした ARCO 新聞が、より多くの学生の目に留まり、大学の外の地域との繋がりを持つきっかけや、ボランティアに参加するきっかけとなっていれば嬉しいです。



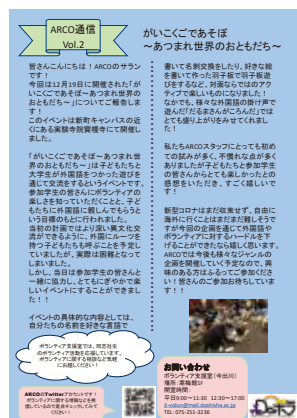
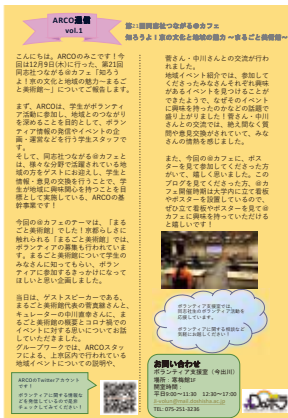
ARCO 通信

【学生レポート】活動報告・感想

法学部法律学科2年次生 梶垣 美森

ARCO の活動を学生へ発信する機会を増やし、ARCO の知名度を向上させることを目的に ARCO 通信を作成しました。当日の写真を使用したり、背景をカラフルにすることで視覚的に学生をひきつけるとともに、活動内容を詳細に記載することで活動への理解を深めてもらい、新メンバー獲得につなげることを目指しました。また、SNS で発信するだけでなく、紙媒体でも発行することで寒梅館やボランティア支援室を訪れた人に直接手に取ってもらえるようにしました。

今回、ARCO 通信の作成を通じて改めて活動を振り返ることができ、また自分たちの活動が目に見える形となったことで、次の活動への意欲も湧いてくる、良い機会となりました。



ヒアリング活動

【学生レポート】活動報告・感想

社会学部社会学科3年次生 齋藤 恭寛

ARCO の活動理念の1つである「地域との顔の見える関係作り」を達成するため、コロナ以前は地域のイベントにメンバーが参加し、地域の方との関係作りを行ってきましたが、コロナ禍では地域での活動ができず、関係が薄れつつありました。地域の方とのつながりを継続するため、コロナ以前の活動を知るメンバーが活動の第一線から退くタイミングを前に活動はスタートしました。地域の方には、「コロナ禍の今、何をされているのか」「学生に向けたメッセージ」などを伺いました。通常の学期の活動と並行して行なったこともあり、メンバーそれぞれ大変な中での活動でしたが、メンバーからは「地域の方とつながる機会となった」「地域の方も ARCO とのつながりが続くことを望んでいることがわかった」などの声もあがる活動となりました。今回伺ったお話はボランティア支援室前の廊下のガラス壁にも掲示しています。ぜひご覧ください！



ARCO 説明会・ARCO 相談会（京田辺）

【学生レポート】活動報告・感想

文化情報学部文化情報学科4年次生 酒井 俊樹

ARCO 説明会・相談会は、ARCO（京田辺）の新メンバーを募るために行った新入生歓迎イベントの一環として行いました。内容としては、ARCO（京田辺）の理念や活動内容を知ってもらうためのものであり、説明会ではARCO メンバーからのプレゼンテーション、相談会では参加者からの質問に答える形でARCO（京田辺）の紹介を行いました。結果として、説明会ではARCO（京田辺）の理念や活動内容に関して参加者によく理解してもらうことができ、相談会では参加者が不安に思っていることや疑問に思っていることなどを解消することができました。



京田辺まちすごろく



【学生レポート】活動報告・感想

心理学部心理学科4年次生 小泉 風花

このイベントは、ARCOの周知、新メンバーの募集、京田辺の魅力を簡単に知ってもらえるようオリジナルのすごろくを作成し、実施しました。今年もコロナ禍で大学生活が始まりました。学部でのオリエンテーションや、大規模なイベントが行うことができずいたため、新入生同士がコミュニケーションを取りやすいような、大学生活の不安を解消できるようなイベントにしたいと思いました。対面とオンラインどちらでも実施することができ、新入生が安心して参加できるイベントになったと感じます。



【学生レポート】参加者感想

理工学部電気工学科1年次生 村上 優太

ARCOの活動に興味があり、開催されていた本企画に参加しました。参加前はメンバーの方と上手く話せるか不安な部分もありましたが、先輩、参加者、大学職員の方、どなたも温かく接してくださり、普段の活動の様子を垣間見ることができました。すごろくの内容は大学生活

4年間を上手く落とし込んだものになっており、入学してで右も左もわからない状態の私は新しく始まる日々に関心を巡らせることができました。参加できてとても良かったです！

そうだ、京田辺を探検しよう！

【学生レポート】活動報告・感想

理工学部機能分子・生命化学科2年次生 西田 匡希

ARCO（京田辺）への新入生歓迎の一つとして行ったこのイベントは、新入生に京田辺の魅力を伝えること、ARCO が関わる団体とARCOの活動内容を知ってもらうことを目標としました。このイベントは実際に自分の目で見ることを大事にしたいと考え、昨年のようなオンライン実施ではなく対面で行うことにこだわり、実施しました。また、対面企画であることを活かし、移動中には京田辺にあるものにまつわるビンゴカードを作成して、参加者との交流も意識しました。今回対面形式で行うことができ、実際に京田辺の魅力を伝えることができたと思います。



【学生レポート】参加者感想

文化情報学部 文化情報学科1年次生 松本 桜奈

これから通う大学の周辺地域についてあまりよく知らなかったため、この企画に参加することで少しでも京田辺に触れることができたらと思い、参加させていただきました。コロナ禍でもあり、新歓活動に参加することができず、今回が初めて先輩方とお話する機会となりました。とても緊張していたのですが、優しく接していただき、とても楽しい時間を過ごさせていただきました。国宝を所有するお寺や、最新技術を用いたトマト農園などの大学周辺の魅力的なスポットを初めて知ることができました。大学と駅の往復だけではきっと知ることができなかったと思います。

ブラタナ 大学周辺って何があるの?～ ARCO と一緒に京田辺を歩いてみよう!～

【学生レポート】活動報告・感想

スポーツ健康科学部スポーツ健康学科3年次生 塩沢 仁

ブラタナは当イベントを通し学生に京田辺市に興味を持ってもらうことで、地域との関わりを持つきっかけとなることを目的に企画しました。

当日は京田辺市の特徴である天井川や、すいき神輿と関わりの深い棚倉孫神社や、一休寺を訪れ、見学を行いました。また、すきなまち京田辺塾の方やボランティアガイドの方の協力もあり、京田辺市についていろんなことを知ってもらえる機会になったかと思います。「知らないことばかりで興味が湧くイベントであった」という感想もいただくことができ、学生にとって京田辺市の魅力に触れ、興味を持ってもらえるイベントになったと思います。



【学生レポート】参加者感想

文化情報学部文化情報学科1年次生 梅澤 宇生

私が「ブラタナ」に参加した理由は、興戸で下宿をしているにも関わらず京田辺のことを知らなさすぎる、自分が住んでいる場所の魅力を知ることにより楽しい大学生活を過ごしたいと思っていたからです。実際に参加したことで棚倉彦神社（たなくらひこじんじゃ）や一休寺という京田辺の歴史や魅力が詰まった場所を訪れることができ、充実した時間を過ごすことができました。

「ブラタナ」の頃はまだ紅葉には早かったので、後日紅葉がピークの時期に、再度一休寺を訪れて紅葉を満喫させていただきました。この魅力は家族や友達に紹介したいと思っています。「ブラタナ」に参加して本当によかったなと思っています。



2021年11月10日洛タイ新報

ARCO 京田辺魅力発見マップ作成



【学生レポート】活動報告・感想

理工学部機能分子・生命化学科2年次生 西田 匡希

「京田辺市にはどのような地域団体があるのか目に見える形にしたい」との思いから、昨年度からマップを作成しました。この企画をすることにより、新しい団体と繋がることができ、有意義だったことから、今年度もこの企画を継続することにしました。このマップは京田辺市で活動する地域団体の情報を記載したもので、学生が京田辺地域に対して興味を持つきっかけの一つになると考えてます。

マップに記載する情報を集めるため、私たちが興味を持った団体に昨年度同様オンラインにてヒアリングを行いました。今年度は10団体と繋がれることを目標にして、現在は9団体と繋がることができました。様々な分野で活動される多くの団体と関わったことで、京田辺地域が持つ新たな魅力・課題を発見できたと考えてます。今後はどうすれば、学生にマップの存在を認識してもらえるか、マップで繋がった団体について興味を持ってもらえるかについて検討していきます。



同志社つながる@カフェ

「同志社つながる@カフェ」は、地域と学生の出会いをコンセプトに、地域で活動する様々な方々と出会い、気軽に情報交換ができる場として、上京区役所、上京区社会福祉協議会の協力のもと行っています。企画・運営はボランティア支援室学生スタッフ ARCO が担い、年間を通して実施しました。

今年度は下記のとおり全2回を実施し、より多くの学生が興味を持ってもらえるようなキーワードや、大学周辺の地域情報を中心に取り上げ、地域とつながる魅力について伝える内容となりました。

実施したいすれの回も、お招きしたゲストスピーカーの活動場所は大学から近く、参加後も気軽に訪れやすい場所（カフェ）やイベントを行っており、話を聞くに留まらないよう工夫して開催しました。また、ゲストスピーカーの活動以外にもテーマに沿った ARCO 目線での地域情報を伝えるなど、テーマについてより身近に感じる機会を作ることができました。今後も継続して、学生が地域に興味を持つきっかけを作っていきます。



○実施日・実施テーマ（参加者数）

7月15日（木）第20回「そうだ、地域に出よう@コミュニティカフェ」（10名）

12月9日（木）第21回「知ろうよ！京の文化と地域の魅力～まるごと美術館～」(7名)

【学生レポート】活動報告・感想（第20回分）

政策学部政策学科2年次生 矢野 実咲

今回の同志社つながる@カフェは、「コミュニティカフェ」をテーマに企画を実施しました。昨年度は、コロナ禍の影響でオンラインでの実施を余儀なくされましたが、今回は感染対策を行いながら対面で企画を開催することができました。企画当初は、多様なコミュニティカフェの紹介方法や企画内容で頭を悩ませました。また、私自身、企画運営に関わるのが初めてだったので、本番はうまく立ち回れるか不安でした。しかし、企画当日、ゲストスピーカーとして呼び出した『バザールカフェ』のスタッフである狭間さんと参加学生の交流がとても盛り上がっているのを見て、企画に携わることができて良かったと思いました。

【学生レポート】活動報告・感想（第21回分）

法学部法律学科2年次生 渡瀬 夏菜

2021年12月9日に「第21回同志社つながる@カフェ」を実施しました。

今回の@カフェは、学生が実際に参加したり、運営として関わったりする地域イベントについてまず知ってもらい、そして、企画後には実際に地域イベントに参加してもらい、地域とのかかわりを持ってもらうことをねらいとしました。

当日は、まるごと美術館の中川さんと菅さんをお呼びして、イベントの取り組みや運営に込めた思い、コロナ禍におけるイベントの現状などについての講演と、参加学生との交流をして頂きました。

@カフェ終了後には学生がゲストスピーカーさんに話しかけに行く姿を見る事もできました。また、アンケートからまるごと美術館以外の地域イベントにも興味を持ってもらえたことが分かったので、地域参加のきっかけを提供することができた、より良い機会になったのではないかと思います。

【学生レポート】参加者感想

文学部哲学科3年次生 福田 衣恩

掲示板を見たことをきっかけに参加しました。内容は、バザールカフェの説明を聞き、グループで感想を共有しました。私の中でカフェとは、誰かと一緒にいき美味しいものを食べて、ただゆったりするイメージでしたが、バザールカフェは、カフェ自体を人間のように感じました。行くたびに新たな人や自分、考えと会うことができ、自分自身の存在が素敵なものであるという当然のことを再認識できる場所であり、それが大学の近くにあることを知りました。

たなしる

「たなしる」は、「京田辺のヒトモノコトを知る・知らせる」をテーマに、参加した学生が京田辺地域の魅力を知り、地域に目を向けて、それ以降も地域に出て行くきっかけとなることを目指しています。ボランティア支援室学生スタッフ ARCO（京田辺）の基幹事業として位置づけ、ARCO が企画作成・運営を行っています。

今年度は春・秋学期に1回ずつ年間2回開催しました。

第4回「たなふく」では、「福祉事業所での農福連携・六次産業化」をテーマに掲げ、福祉団体さんさん山城（就労継続支援B型）の協力のもと実施しました。京田辺市産の高級食材の出荷準備や「濃茶大福」作りを、障がいのある方が指導者になり学生が体験をさせていただきました。また、さんさん山城では六次産業（生産、加工、販売）によって付加価値を生じさせ、工賃の増大、仕事のやりがいへとつなげていることを知る機会となりました。参加者の多くはワークショップでの「障がい者の定義」について深く感銘を受けていました。

第5回「茶なしる」は「お茶・玉露」をテーマとし玉露・煎茶の飲み比べ体験を実施しました。京田辺市は全国でも有数の玉露の産地であり、優れた京田辺のお茶の魅力を広めたいと活動されている団体「喫茶去茶んす」の日本茶インストラクターの方から、知識やお茶の淹れ方を教えていただきました。

京田辺の魅力を知ってもらうこと、さらにはそんな地域に関わる人々に興味を持ってもらうことにつながる機会提供になったと思います。

○実施日・実施テーマ（参加者数）

8月5日（木）第4回「たなふく」（10名） 3月15日（火）第5回「茶なしる」（2名）

【学生レポート】活動報告・感想（第4回分）

文化情報学部文化情報学科4年次生 酒井 俊樹

本イベントは ARCO（京田辺）の基幹事業である「たなしる」の企画の一つとして行いました。本イベントは「福祉」と「農業」をテーマに京田辺の福祉団体である『さんさん山城』の魅力を学生に伝えることを目的としています。目的の達成のために重視したことは、参加者に実際に体験をしてもらうことであり、実際に参加者には福祉や農業の現場である『さんさん山城』で「生産」、「加工」、「販売」に関する作業をしてもらい、実体験として学んでもらいました。結果として参加者の満足度は高く、参加者に今後の関係を持つように誘導することができました。



【学生レポート】参加者感想（第4回分）

心理学部心理学科1年次生 百名 竹弥

私は「濃茶大福の包み体験」という文言に惹かれ、軽い気持ちで今回のプログラムに応募しました。大福包みに唐辛子の収穫と、普段できない貴重な体験をさせていただいて楽しかったのですが、まず近所にこのような場所があることも、そこで行われている農福連携や六次産業化などの取り組みについても知らないことばかりだったので、とても勉強になりました。最後に聞いた施設長の新免さんの言葉からは、本当に熱意が伝わってきて心に響くお話でした。この企画を通して自分の視野が大きく広がったと実感しています。



【学生レポート】活動報告・感想（第5回分）

文化情報学部文化情報学科1年次生 磯垣 宣輝

京田辺は玉露という高級茶が市の特産品で、非常に有名です。ただ学生にはあまり知られていないのでもっと魅力を知って欲しいという思いでこのイベントを企画しました。京田辺でお茶の魅力を広めようと活動されている「喫茶去茶んす」という団体に協力していただきました。

当日はお茶の歴史であったり、玉露がどのようなもののかなど、お茶についての知識を喫茶去茶んすの藤原さんから教えていただきました。その後実際に玉露がどのような味なのかを知るために、玉露と煎茶で飲み比べをしました。そして最後に、今日知ったことや感じたことを踏まえて、どうすれば高級茶がもっと学生に普及するかというテーマでみんなで意見出しをしました。

【学生レポート】参加者感想（第5回分）

理工学部電気工学科1年次生 前田 兼志

今回友達で紹介でこのイベントに参加しました。お茶のことは全くと言って良い程知識がなかったので、十分に楽しめるのか不安でした。しかし、お茶の飲み比べのコーナーで、普段飲んでいるお茶よりも味が濃く衝撃を受けました。それぞれの味に特徴があってとても面白いと思いました。こういった機会は貴重なもので、体験出来て良かったです。コロナ禍で家にいることが多くなる中で、新しい趣味を始めた人も多いと思いますが、たまにはいつもとは違う高級なお茶を楽しむこともおすすめしたいと思いました。

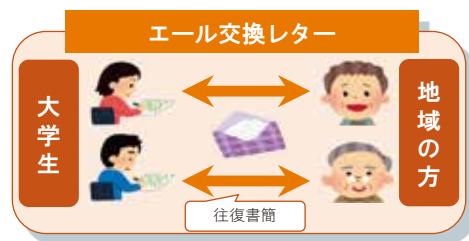


エール交換レタープロジェクト（今出川）

2020年4月に緊急事態宣言が発出され、人との接触が制限される中で、人との交流を絶やさない取り組みとして始まった本プロジェクトですが、2年目となった今年は、上京区及び待賢学区、聚楽学区、そして京都市小川包括支援センター協力のもと、文通を通じた異世代間交流の機会として実施しました。

昨年度は、学生と地域の高齢者が1対1でやり取りをする文通形式と、学生2人、地域の高齢者2人の計4人でノートを交換する形式の2つの方法を設定して行いましたが、今年度は学生と地域の高齢者が1対1でやり取りする文通形式のみとし、学生14人、地域の高齢者19人が参加しました。やり取りではペンネームを使い、大学と区役所、民生児童委員を通じて相手に届ける仕組みとし、お互いのことを思いながら、交流を楽しみました。プロジェクト終了後に、参加メンバーが一同に会して感想等を共有する報告会を設ける予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の感染状況の悪化に伴い、残念ながら中止となりました。

報告会を実施できなかったことは残念ではありましたが、手紙のやり取りを通じて教えてもらった場所へ実際に行ってみたり、手紙に書く話題作りのために積極的に外出したりと、想いを文字にして伝えあうだけでなく、日々の楽しみや行動のきっかけになるなど、想定していなかった効果があったこともアンケート等から垣間見ることができました。



【学生の感想】

- ・ SNSの時代に、手書きのお手紙で交流できることが、新鮮でした。顔も知らないけれど、書体や言葉遣いなどで、どんな人なのだろう？と想像するのも楽しかったです。毎回お返事が届くのを楽しみにしていました。お相手の方もそうであると嬉しいなと思っています。
- ・ お相手が手芸や細かな作業が得意だということで、お手紙と一緒に手作りのスマホポーチを同封してくださいました。顔が見えず、本名も知らない私に対して、手芸という決して短時間では終わらない作業で心を寄せてくださり、プレゼントをいただいたことに心から感激しました。
- ・ 終了するのがとても早く感じました。
- ・ お年寄りの方とお話する機会が今までなく、とても新鮮で楽しかったです。自分のことを気にかけてくださったり、励ましてくださる方がいることにすごく安心できました。

【地域の方の感想】

- ・ ほっとしました。
- ・ 若いのにしっかりした考えで、頼もしく感じました。
- ・ お相手の方はいつも読み易い文章で字もきれいなので、私も字を少しでもきれいに書こうと思ったり、どんなことを書こうと考えて、脳トレにもなっている気がしました。何よりも、お手紙を受け取る時にワクワクして楽しいです。
- ・ 自分の学生時代、社会人一年生時代を思い出し、懐かしく、また新たな気持ちで人生を再スタートできる気がします。肉体的には老いを感じますが、自分なりにまだまだ頑張りたいと思いました。
- ・ 短い文章の中での現代っ子達の考えが少し見えて良かったと思います。

エール交換ノートプロジェクト（京田辺）

コロナ禍において人との交流の機会が減少する中、非対面で地域の小学生と同志社大学がつながる機会を創出することを目的として2020年度から開始したエール交換ノートプロジェクトですが、2021年度も引き続き、京田辺市社会福祉協議会と京田辺市内の子育て団体の方々、また広報においては興戸区にご協力いただき、小学生と大学生のノート交換を通じた交流企画を実施しました。京田辺市内に在住している小学生11人、本学学生11人が参加し、最大10往復のノート交換が行われました。

ノート交換では2020年度同様にペンネームを使い、大学を仲介した京田辺市社会福祉協議会に協力いただいて、学生・小学生それぞれに届ける仕組みで行いました。社協事務局がある京田辺市立社会福祉センターのレターボックスを借りて、小学生へ届けることができました。

今年度はノート交換終了後、3月に対面会を開催し、およそ半年間ノートでのやり取りをしてきた学生・小学生と対面で会うことで、さらに交流を深めていました。対面会ではこれまでのやり取りでのお礼や感想などを伝えあい、住所等教えあってプロジェクト終了後も引き続きノート交換を行うことを約束する参加者もいました。

参加した学生からは「LINEなど便利で手軽な方法では希薄になりがちな、待ち遠しく思う気持ちや、ノートが届いた時の喜び、ノートを開く前の今回は何が書いてあるのかワクワクする感情を味わうことができた」「パートナーは色々なことに興味があり、たくさん質問もしてくれた。何をするにも、小学生の好奇心の強さや自主性は見習いたいと思った」「相手の子が送ってくれる文にちゃんとリアクションすることで相手の子との関係を作れることを学んだ」といった声が寄せられました。また、保護者の方からは「同年代と違い年上の方ですので、色々と自分で書きたいことや文章を考えて言葉を選び文字にする工程は、適度な緊張感もあり、ワクワクと楽しそうでした。想像力も必要ですし、よい経験になりました」というご意見をいただきました。



【学生レポート】参加者感想

文化情報学部文化情報学科4年次生 伊藤 由愛

私は子供とキャンプをするサークルに所属しておりましたが、コロナによって軒並み中止になってしまいました。そこで、子供と交換ノートを通して関われる機会があると知り参加しました。

初めは顔も性格も趣味もあまり分からない子に対して、どういう文章で接していいか分からず悩みました。しかし、何度もやり取りをするうちに学校での生活、夏休みの思い出、好きなアイドルのことなど沢山のことを教えてくれて、どんな子なのだろうと自分の中で想像する楽しみがありました。最後は私に会って一緒に遊びたいと書いてくれました。それを読んだ時はとても嬉しくて、ずっと心に残っている思い出です。

対面会では、ほかのペアの子と一緒に人間知恵の輪などのレクリエーションをしました。はじめは緊張していた子も笑顔を見せて楽しんでくれて、直接会えて良かったなと思えたひと時でした。

また今回の企画が終わってからも交換ノートのやり取りを続けられることになりました。ペアの子や京田辺のことをもっと知れると思うとこれからがとても楽しみです。

プロジェクト協力者感想

社会福祉法人京田辺市社会福祉協議会 ふれあい福祉課 笹山 典孝

本会ではこれまで、学生が“地域を知り、地域に入っていける仕組みづくり”であったり、“地域資源と組み合わせた新しい出会いの場の創出”に向けて、ボランティア支援室スタッフや学生の皆さんと意見交換の場を設けさせていただいておりました。そのような中で『エール交換ノートプロジェクト』へ参加させていただき、コロナ禍で制限されたなかでも人と人とが心を通わすことができる取り組みに必要性和可能性を感じています。地域での更なる広がりや様々な活動につながるきっかけになることへの大きな期待と共に、引き続き関わらせていただくことを楽しみにしております。

フードバンク食品配付会

2020 年度末 3 月から開始された「フードバンク食品配付会」を今年度は春学期に 2 回、秋学期に 2 回実施いたしました。

この食品配付会をボランティア支援室が取り組む大きな目的としては、本学学生が地域の方々から支えられることを知り、こうした活動や地域に関心を持つきっかけにつなげることをねらいとしているのと同時に、支援されるだけでなく次には「何か自分が他人のために行動を起こす」きっかけとしてほしいという期待があります。昨年度からのコロナ禍の影響はまだ続いてはいますが、7 月実施時には「夏ボラ」と称して学生ボランティアを募集することができ、10 名の学生が当日配付セットの準備に参加してくれました。うち 4 名は自らが食品配付を受けたことで感謝の気持ちから行動を起こし、その他ボランティアをしてみたかった、学内でのボランティアなので気軽に参加できた、との気持ちを表してくれました。その後の配付会開催時でも、「秋ボラ」「冬ボラ」への学生ボランティアが参集し配付準備を行うことができました。意図していたボランティア初心者層の学生を拾うことができる企画であることを確認することができたと思います。

またこの企画は、京田辺市民の一員である本学学生を支援したいとのフードバンク京田辺からの働きかけと、京田辺市社会福祉協議会との連携により実現しています。フードバンク京田辺の担当者からフードバンクの取組の意義やフードロスについて話を伺う時間も設定したことで、学生にとっては社会課題を切り口にボランティアに携わる機会にもなりました。



【学生レポート】秋ボラ参加者感想

心理学部心理学科 2 年次生 竹内 百花

私は以前から人の役に立つ活動をしてみたいと考えていましたが、思いを行動へ移すことができませんでした。そこで、以前フードバンクとして食品配布していただいた企画のボランティアがあることを知り、軽い気持ちで参加を決めました。これまでボランティアには堅苦しいイメージがありましたが、誰でも気軽に参加することができる活動だと気づきを得ることができました。また、ボランティアに参加しなければ出会うこともなかった人々と出会うこともでき、自分自身にとって貴重な経験となりました。

【学生レポート】冬ボラ参加者感想

スポーツ健康科学部 3 年次生 吉田 美央

私はこの活動で食品を頂いた経験があり、私も「食生活に困っている学生を助けたい」と思ったのが参加のきっかけです。私自身ボランティア活動は初めての体験でしたが、地域の方々や参加メンバーと交流する中で、短い時間ながらも楽しく活動することができました。実際に学生が食品をもらい嬉しそう姿を見たときに、この活動に参加して良かったなと感じました。今後も積極的に参加していこうと思います。



和束のお茶を守ろう！茶畑ボランティア

体験ボランティアプログラム「和束のお茶を守ろう！茶畑ボランティア」を、下記の通り 2 回実施しました。体験ボランティアプログラムは「ボランティアに興味はあるけど参加するきっかけがない」「一歩を踏み出すのに勇気がある」といった学生を対象に実施している、ボランティア支援室主催のプログラムです。京都府南部にある和束町にて活動を行っています。

2016 年度から継続して実施してきましたが、昨年度は新型コロナウイルスの影響を受けて、開催することができませんでした。しかし今年度は、感染対策を講じながらも対面での実施を探り、半日の活動時間ではありましたが、開催することができました。

6 月に実施した第 11 弾では、草引きを行う班とお茶刈りを行う班にわかれて活動しました。また、11 月に実施した第 12 弾でも、お茶刈りや草引きを行う活動となりましたが、参加者同士の交流や、茶農家さんとの交流が深まり、お茶に対する茶農家さんの想いを聞いたことが印象的だったという声も寄せられました。

年に数回の活動ではありますが、今後も和束町のお茶に貢献できるよう、またコロナ禍で対面でのボランティア活動への参加の機会が減っている学生に向けて、継続的に本プログラムを開催したいと思います。

○実施日・参加者数・実施内容

6 月 27 日（日）体験ボランティアプログラム第 11 弾（5 名）茶畑での草引き、お茶刈り

11 月 6 日（土）体験ボランティアプログラム第 12 弾（6 名）茶畑での草引き、お茶刈り

【学生レポート】参加者感想

グローバル地域文化学部グローバル地域文化学科 2 年次生 枝川 朱里

本プログラムはボランティア初心者にも門戸が開かれているだけでなく、京都ならではの活動ができると感じたので参加しました。実際に活動に参加すると、茶畑の手入れなどは想像以上に大変な仕事であり、生半可な覚悟では到底続けることのできないものだと思感しました。そのために、より一層お茶農家の方々がいかにお茶を大切に、誇りを持って生産しているかがひしひしと伝わってきたのも事実です。この経験を通し、今後も生産者の方々にサポートできるようなプログラムに参加したいと思いました。

【学生レポート】参加者感想

文学部文化史学科 4 年次生 恩田 由香里

元々、お茶が好きということもあってお茶作りのボランティアに興味を持ち、今回機会があったので参加させていただきました。最初は茶農家さんの力になれるのか不安でしたが、意外と体力仕事であった茶刈り作業では、茶農家さんが丁寧に指示や補助をしてくださり、番茶を綺麗に刈り取ることができました。和束町の方々は親切で、お茶に関しても多くのことを教えてくださったので、一方的に貢献するだけではなく、参加する私たちにとっても非常に学びの多い実りある活動でした。

ARCO 研修

【学生レポート】活動報告・感想

文化情報学部文化情報学科3年次生 高向 千晴

今年度より新たに加わった ARCO（京田辺）のメンバーは具体的なボランティア経験がないことに加え、新型コロナウイルスの影響を受けて、ボランティアをする機会が持てていませんでした。そこで、メンバー同士でボランティアやその普及に対する意識を共有し、メンバーとの関係性の構築や地域についての理解をより深めるため、ARCO 研修を三休で実施しました。本研修では、主に万願寺とうがらしの収穫を行いました。参加したメンバーからは、「農業だけでなく福祉にも興味を持った」「もっと京田辺のことを知りたい」といった声が寄せられました。本研修を通して、ボランティアや京田辺地域のことを考えるきっかけになったと思います。



【学生レポート】参加者感想

文化情報学部文化情報学科1年次生 松島 昂輔

今回の ARCO 研修には、京田辺市のボランティア活動を知り今後の自分の活動に活かすことを目的として参加しました。当日の活動は、就労継続支援 B 型事業所「三休」で働かれている方々と万願寺唐辛子の収穫を行い、「三休」の活動についてのお話を聞かせていただきました。実際にボランティア活動を行った感想としては、素直にとっても楽しかったと感じました。収穫の仕方や育て方など、雑談を交えながら優しく教えてくださり、とてもアットホームな雰囲気でした。また、活動を始めたきっかけや現在の取り組みについても詳しく教えていただきました。

「三休」では障がいの有無に関係なく、誰でも気軽に訪れることができる場所づくりを目的としておられ、まさにその通りの場所だと感じました。「三休」でボランティアを行い、ほかの多くの学生にもこうした場所を知ってほしいと思いました。今後の ARCO の活動では「三休」のような京田辺市の団体を学生に広く知ってもらうための活動を積極的に行っていきたいです。

ぼんぼん夏まつり

【学生レポート】活動報告・感想

法学部法律学科3年次生 中野 希望

今回、オンライン体制に入って初めての子ども向けイベントである「ぼんぼん夏まつり」を行いました。地域のお祭りの開催が難しい今、なんとか夏祭りを開催できないかと考えたのをきっかけに、子どもたちもボランティアで参加する学生も楽しめるイベントを作ろうと企画しました。

オンライン開催のため、子どもたちのパソコンスキルやお祭りの雰囲気の出し方、子どもたちへの対応方法など、考える点、工夫すべき点がいくつもあり、苦労しました。ボランティアに来てくれた学生との連絡方法も、対面とは違って工夫が必要であり、とにかく考えることが多かった印象です。特に本番の空気感は、開催してみないとわからないものなので、本番ギリギリまで心配でした。しかし、本番が始まるとみんな本当に楽しんでくれていました。子どもたちは私たちが質問を投げかけると自主的に返事をしてくれ、一つ一つのコーナーを全力で楽しんでくれていました。学生の皆さんも子どもたち一人一人の様子に気を配り、自ら話しかけてくれていました。私たち ARCO のメンバーもそれぞれかたくならないよう気を配り、夏祭りらしい温かく賑やかな雰囲気を出せていたと思います。

班内で何度も MTG を重ね、工夫を凝らしたことで楽しい本番を迎えられました。

【学生レポート】参加者感想

法学部法律学科2年次生 吉本 ちひろ

オンラインでボランティアできることに惹かれて参加を決めました。子どもたちはオンラインでも本当に楽しんでくれるのか最初は心配でしたが、それは杞憂でした。画面の向こうの子どもたちが、つくったお面を見せてくれたり、一生懸命盆踊りをしたりする姿に、私が元気をもらいました。分からないことは分からない、楽しいことは楽しい、とはっきり言う素直さは、私たちが失っているものかもしれません。今後も子どもと関わってみたいくなりました。



ボランティア体験～子ども×ボランティア～

【学生レポート】活動報告・感想

文化情報学部文化情報学科1年次生 清水 杏里紗

本イベントは、京田辺市の子どもたちとハロウィンを兼ねたウォークラリーを行うイベントです。ボランティア団体「ばーばの手」にご協力いただき、ボランティアを体験したい同志社大学生を募り、企画を実施しました。内容は、仮装した子どもたちが地図を見てポイントを巡り、そこでハロウィンに関するクイズに挑戦し、キーワードを見つけるといったものです。イベント当日は、子どもたちはワクワクした様子でウォークラリーを楽しんでくれました。参加した大学生も、子どもたちのサポートを行ったり、積極的に会話をしたり、「ボランティアは楽しいものだ」と実感してくれました。



【学生レポート】参加者感想

心理学部心理学科4年次生 丸山 奈緒子

ボランティアをやってみたい、子どもたちと触れ合いたいという思いから、今回の企画に参加させていただきました。ウォークラリーを進めていく中で、子どもたちの緊張が徐々に解けて笑顔が増えていくのを見るのは、とても嬉しく、参加してよかったと思いました。私自身楽しみながら子どもとの関わり方を勉強できたとともに、「ばーばの手」のように京田辺の地域の子どもや家庭を支援する活動に興味をもつきっかけにもなりました。



がいこくごであそぼう～あつまれ世界のおともだち～

【学生レポート】活動報告・感想

経済学部経済学科2年次生 山本 雨音

「がいこくごであそぼう～あつまれ世界のおともだち～」は学生に子どもと関わるボランティアの楽しさを伝えるだけでなく、学生と子どもに様々な文化に触れる楽しさを知ってもらうことを目的として開催しました。企画では日本文化を体験できる羽子板や、様々な言語を使用してだるまさんがころんだをしました。はじめは少し固い雰囲気でしたが、一緒に遊ぶことで学生も子どもも緊張がほぐれていき、とても賑やかなイベントになりました。参加学生からは「子どもとの接し方を学ぶことができた」「また子どもと関わるボランティアに参加したい」という声をいただきました。参加者のみなさんの楽しそうな姿を見て、私も元気になりました。



【学生レポート】参加者感想

文学部英文学科2年次生 竹内 健斗

子ども達と積極的に関わりたいと思い参加しました。活動前はお互いにマスクをしているため表情と声が伝わり辛いのではと懸念していました。しかし羽子板で遊んでいる内に、子ども達はマスク越しでもわかるほど笑顔で遊んでくれて、こちらも楽しんで活動できました。普段あまり関わることのできない年齢層でしたが、彼らの有り余るエネルギーや楽しそうな様子に元気をもらえました。学生の間は同年代としか関わらないことが多いですが、異なる年齢層と関わる機会を与えてくれて感謝しています。

[防災事業第一弾] 防災講座～今こそ「備える」ことを考えよう～

9月1日(水)に防災講座～今こそ「備える」ことを考えよう～をオンラインにて実施しました。

本講座は、毎年のように発生している自然災害に対して、日ごろからの備えを見直すことやグループワークを通して様々な防災に対する視点を学び合うことで、防災に対して意識を高めることを目的とした企画です。講師にはNPO法人国際ボランティア学生協会の深山恭介氏をお招きし、10名の学生が参加しました。

講義では、過去の災害を例に被災した際にどうなるのか、イメージを深めました。そして、それらの災害から身を守る備えとして、地震の場合、水害の場合にわけて解説いただきました。後半では実際に被災した際に、どのように家族と連絡を取り合うのか、また自宅での避難生活についての2つのテーマについて、グループワークを行いました。

参加者からは、「今までにあった災害について、その被害状況や、実際に困ったことなどを詳しく知ることができ、防災について考えるよい機会になった」「グループワークを通じて、自宅にそこまで備えがないことに気づいたので、いざという時のために、防災グッズとか買いそろえたいと思った」といった感想が寄せられ、防災に対してじっくりと考える時間になったようです。

[学生レポート] 参加者感想

文化情報学部学科1年次生 三輪 玲以佳

日本に暮らす以上、災害とは上手く付き合わねばなりません。防災について学びたいと思い、本講座に参加させていただきました。講座ではNPO法人国際ボランティア学生協会の深山恭介氏から実際に起きた災害の様子を例に身を守る備えについてお話しいただき、その後、自宅での避難生活に家にあるものを役立てる方法や被災時の家族との安否確認方法についてグループごとに検討し発表しました。災害を想像し周囲の人と共に備えることが効果的であるということが印象に残りました。



[防災事業第二弾] 防災講座～熊本から学ぼう！災害とボランティア～



10月23日(土)に防災講座～熊本から学ぼう！災害とボランティア～をオンラインにて実施しました。第二弾となる本講座は、震災から5年が経つ熊本から講師をお呼びして、熊本地震の当時のお話を聞くことで、災害ボランティアに関心を寄せることを目的とした企画です。講師には熊本市社会福祉協議会の宮原栄志氏をお招きし、5名の参加がありました。

前半の講義では、熊本地震当時の状況について、災害ボランティア活動について、そして災害ボランティア活動への支援についての3つについてお話しいただきました。後半では、参加学生同士で前半の講演の感想共有や、講師への質問についてグループで話し合った後、全体で質疑応答等を行いました。

終了後のアンケートでは、「日常の中で普通に何気なく使って捨てるものでも災害時には地域の人をつないであげる、コミュニティをつくることに役立つということが印象に残りました。」といった感想が寄せられ、災害に対してじっくりと考える時間になったようです。

[学生レポート] 参加者感想

政策学部政策学科2年次生 安倍 瑞喜

「災害ボランティアに携わっている方々の具体的な活動内容や活動に懸ける思いなどを学びたい」と思い、今回の企画に参加させていただきました。企画では、熊本地震の際に活動に携わっておられた方から、当時現場で活動されていた学生ボランティアさんのお話なども聞き、災害ボランティアに様々な役割があることやボランティアとしての在り方、参加する際に意識することなどを教えて頂きました。このようなお話を通して、今後災害が発生した際に、自分自身にできることを今一度考えてみる貴重な機会になりました。

[防災事業第三弾] V-NET 合同企画キャンパスで地震が起きたらどうする？

[学生レポート] 活動報告・感想

グローバル・コミュニケーション学部グローバル・コミュニケーション学科4年次生(Global Baton for Ishinomaki) 蔡 紫盈

今回の企画の狙いは「防災準備・避難意識を高める」、「大学の避難経路・体制を理解する」、「大学側に当事者である学生の感想・意見を伝える」です。内容は①ハザードマップなどの災害・防災の基礎情報を伝えること、②起震車体験、③キャンパス内の避難経路の説明を受けながらフィールドワーク、④感想・意見を共有するグループワーク、⑤非常食の配布、の5パートに分かれて実施しました。当日は、起震車を体験することが初めての参加者が多く、ワクワクしながらも地震の危険性を実感できたようです。一方、フィールドワークの中では施設課の方から説明を受け、初めて様々なことに気付くことができました。グループワークの後半では皆も積極的に多様な防災体制の提案を挙げてくれました。企画を通じて、防災意識を高めただけでなく、大学側も学生も、お互いの考えや需要を知ることができたと思います。



[学生レポート] 参加者感想

心理学部心理学科1年次生 岩本 深友

この京田辺キャンパスは私の住んでいる場所から離れており、仮に大学にいる際に地震が起こった場合、どう行動すればいいのか知っておきたいと感じ今回の企画に参加させていただきました。避難場所や、大学構内には気に留めてもいなかった危険な場所が多くあることを知ることができました。また、臨機応変に動くことが大切だということなど、多くのことを楽しみつつ学びました。初対面の方ばかりでしたが、会ったことのない先輩や同級生と語り合っただけで災害に対する危機意識が高められたことも良かったです。

【防災事業第三弾】 知らんくても大丈夫？～クイズで学ぶ防災・キャンパス ver.～

12月6日（月）に知らんくても大丈夫？～クイズで学ぶ防災・キャンパス ver.～を寒梅館地下A会議室にて実施し、4名の参加がありました。本企画は、学生目線で防災に関する企画を考えてもらい、防災サークルの同志社FASTと合同主催という形で実施しました。

当日は、今出川キャンパスに設定した4カ所のスポットを巡りながら、地震が発生した際にどのような行動や判断をするか、参加者同士でクイズを解きました。また、クイズの後では、身近なものであるビニール袋を使って三角巾を作る体験を行いました。

企画の最後には、同志社FASTメンバーによる、防災に役立つグッズリストの資料について、実際のグッズを見せながら解説を行いました。

終了後のアンケートでは、「大学内での地震や地下鉄時について考えたことがなかったので、考えるきっかけになり、袋で三角巾を作れることを初めて知ることができて良かったです。」といった感想が寄せられ、防災に対して考える時間になったようです。



【学生レポート】 活動報告・感想 経済学部経済学科2年次生（同志社FAST） 前田 美羽

知らんくても大丈夫？～クイズで学ぶ防災・キャンパス ver.～は、12月6日にボランティア支援室と合同で行った企画です。地震大国である日本では、誰しも被災する危険性があります。万が一大学で被災した際に適切な判断ができるよう知識を得てもらいたい、という思いでこの企画を開催しました。参加者の皆さんには企画当日、同志社大学今出川キャンパスに設置した4カ所のスポットを巡り、クイズを解いてもらいました。企画終了後に行ったアンケートでは、参加者全員から高い評価を頂きました。主催者側としても、今後さらに知識と経験を積んでいきたいと思える企画となりました。

【学生レポート】 参加者感想

政策学部政策学科2年次生 宮嶋 優

企画内容に興味を持ち参加しました。大学生活の中心である「キャンパス」で災害が起きた場合のことを普段考えたことがなかったため、自分の持ち物などの備えの甘さを痛感しました。イベントでは、災害時にとるべき行動だけでなく、同志社大学やその周辺の施設の非常時の対応を知ることができました。いつ何が起こるか分からない中で、災害を正しく恐れ、身に着けた防災知識を「もしも」の時に活かせるよう普段から備えることが重要だと思いました。

スキルアップ講座 Vol.9 WITH コロナでのグループ運営とコミュニケーションのコツ

3月8日（火）に、「スキルアップ講座 Vol.9 WITH コロナでのグループ運営とコミュニケーションのコツ」をオンラインにて開催しました。スキルアップ講座とは、ボランティア活動に取り組んでいる学生や学内ボランティア団体などを対象に、活動に活かせる発展的な知識やスキルを学ぶ場を提供するボランティア支援室主催の講座です。今回は、新学期を目前とするタイミングで新入生を迎える前に、コロナ禍の状況でのグループ・チーム内での情報共有やコミュニケーションの取り方について学びたいという声を受け、コミュニケーションでメンバーの力を引き出し、グループ運営することについて学びました。

講師に金 香百合氏（HEAL ホリスティック教育実践研究所所長）をお迎えし、18名の学生が参加しました。講座では対話の実践を重視してブレイクアウトでのワークの時間をしっかりもち、よく話し、よく聴き、合意点を作り出していくプロセスを学んで、元気と幸せを生み出すグループ運営をどうつくりだすかそのヒントを教えてくださいました。

参加した学生からは「団体運営、自分が団体に貢献していける方法、モチベーションの保ち方、困ったときにどうするかを考えるにあたって、本当に参考になった」「人と話す時に大切なことを教えていただけて良かった。どのポイントも当たり前のことではあるけれどもそれを実践するのは意識していなければできないことばかりで、自分の人との接し方を見直す機会になった」「課題達成度と人間関係力のお話が印象に残りました。課題を達成するには人との関わり方をおろそかにしてはいけないなと思いました」などの感想が寄せられました。

【学生レポート】 参加者感想

心理学部心理学科1年次生 中垣 薫

私はボランティア団体に所属しており、先輩の卒業や新入生の入会を考えると、これからはチームを引っ張る一員にならないと感じたため、今回のセミナーに参加しました。参加前は、真面目な雰囲気なのかと構えていましたが、始めてみると講師の方がエネルギーで、楽しい雰囲気の中で学ぶことができました。「良いミーティングは責任者1人ではなく、皆が発言する。」そんな理想のミーティングを作るため、誰かの発言を待つのではなく、自ら進んで発言しようと思いました。

同志社ボランティアネットワークとは

同志社ボランティアネットワーク（通称 V-NET）は、同志社大学に所属するボランティア団体（公認団体、学生支援センター登録団体）の活動のさらなる活性化を目的とした、学内ボランティア団体横断型ネットワークです。

2021 年度の＜今出川＞ V-NET は、新歓ではオンラインが功を奏し、対面で実施しているコロナ以前よりも多くの学生からの申込がありました。V-NET は活動の分野（テーマ）や規模、運営形態などが多様なため、なかなか全体でのコラボレーション等がうまくいっていない状況ではありますが、コロナ禍をテーマにした、対面活動における感染対策やメンバー同士の交流の仕方などの共通する課題を中心に、交流がありました。

＜京田辺＞の V-NET は、新歓、6 月交流会、子どもボランティア体験企画、防災企画、12 月交流会、V-NET 新歓に向けた情報交換会と年間 6 回企画を実施しました。このスケジュールは担当者にとって少し負担増となったように感じます。V-NET として合同企画を実施することは、学生らしい創造的な活動が生まれてくることが特色のため、V-NET 団体同士の情報交換をする時間をしっかり確保し、コラボレーション企画が生まれるような場づくりを促していきたいと思います。

＜加入団体／今出川＞

国際居住研究会
STUDY FOR TWO
学生団体 CHAD
学生団体 LUCKY
ASUVID 今出川

同志社ヒーローショー同好会
同志社ワーキングコーラス
Shinmachi Activate Project
同志社 FAST
そら

＜加入団体／京田辺＞

スポーツボランティア団体 Egg
Global Baton for Ishinomaki
PAZ MUSICA
ASUVID 京田辺

ボランティアサークル徹底比較会 in2021 合同オンライン説明会（今出川）

4 月 14 日（水）と 16 日（金）の 2 日間にわけて、主に今出川校地を中心に活動している 11 団体による新歓イベントを行いました。昨年度と同様に新型コロナウイルスの影響により対面でのイベントは行えないため、オンラインにて開催しました。

合同オンライン説明会では、全団体の雰囲気や伝わるような動画や各団体の発表、また、後半では気になった団体に質問ができるように各団体との交流時間を 3 回設けました。2 日間延べ 76 人の学生が参加し、「それぞれの団体がどんな活動をしているのか分かりやすかったです」「ブレイクアウトルームでそれぞれの団体に質問できる機会を設けていただいたことで疑問が解決できました」といった感想が寄せられ、対面することは難しい中でも、最初の一步を踏み出す大きな後押しになったようです。



【学生レポート】参加団体感想

政策学部政策学科 3 年次生（国際居住研究会） 塚本 まゆ

司会の方のスムーズな進行もあり、とても充実した合同説明会になったのではないかと思います。最初に動画を見て団体の雰囲気を知った後に説明を聞くという流れが良かったと思います。今回のテーマがボランティアサークルの比較ということで新入生がボランティアサークルを知るきっかけに、また比較できる機会になればと思います。ブレイクアウトルームでも新入生からの質問に答えたり、サークル外の事も話することが出来て、こちら側から一方的に話すのではなく、新入生との双方向の交流が出来てとても良かったです。

同志社ボランティア合同新歓フェア（京田辺）



【学生レポート】活動報告・感想 同志社女子大学学芸学部音楽学科 3 年次生（PAZMUSICA） 中嶋 桃子

今年度の「同志社ボランティア団体合同新歓フェア」には、ボランティアに興味がある学生たちがたくさん参加してくれました。ミニゲームを通して、同志社ボランティアネットワーク（通称 V-NET）に所属する各ボランティア団体や、V-NET について知ってもらうことができたと感じています。

また、グループに別れて行ったゲームでは、最初緊張した表情だった参加者たちが、ゲームが終わった時には楽しそうな表情になっていたことが印象に残っており、ボランティアというものに少し堅苦しいイメージを持っていた参加者も、このイベントを通して興味をもってもらえたと思います。終始和やかな雰囲気の中でイベントを進めていくことができました。

【学生レポート】参加者感想

同志社女子大学学芸学部音楽学科 2 年次生 長谷川 茉那

以前からボランティア活動に興味があり探していたところ、このイベントを見つけ参加しました。ボランティア活動に関して詳しくなかったのですが、団体の方々が活動内容を詳しく教えて下さり、更に活動への意欲がわきました。クイズ形式で楽しく知識を身に付けることができ、とても面白かったです。

様々なボランティア団体の話を聞くことが出来るので「ボランティア活動をしてみたいけど、どうすればいいかわからない」と感じている人は是非参加してみたいです。

ボランティア団体合同交流会（京田辺）

【学生レポート】活動報告・感想 心理学部心理学科3年次生（スポーツボランティア団体 Egg） 佐藤 未波

6月19日（土）にオンラインにて、同志社ボランティアネットワーク（通称 V-NET）の交流会を開催しました。各ボランティア団体に所属したばかりの新メンバーに、V-NET や他団体について知ってもらおうと思い、開催することを決めました。どのような企画内容にすれば皆がコミュニケーションを取ることができるか、何度も話し合い、「自己紹介すごろく」を取り入れることにしました。すごろくを通じて互いに質問をすることで、各団体の活動内容やメンバーの雰囲気を知ることができました。団体の垣根を越えて、和気あいあいとした時間にすることができました。

今回の交流会はオンラインでの開催となりましたが、実際に対面で、共に活動できる日が待ち遠しくなりました。



【学生レポート】参加者感想

生命医科学部医情報学科2年次生 奈良 紫月

対面でのサークル活動が行えず交流する機会が少ない中、サークルの枠を超えた交流会があると知り参加しました。

すごろくの目にかかれたテーマに沿って、大学生活や趣味などについて幅広く会話をしました。サークルや学年が違う学生とお話でき、新鮮でとても楽しむことができました。みなさんとても親切で面白く、対面しているように会話が弾んだのが印象的です。

V-NET 所属サークルの活動状況を知ることができ、ボランティアに関心がある学生には有意義な場になると思います。

次は是非対面で参加し、より多くの学生とも交流を深めたいです。

V-NET 企画～これできみもなんでも博士！～ワクワク研究所！



【学生レポート】活動報告・感想 心理学部心理学科3年次生（スポーツボランティア団体 Egg） ドールジュ 泉

今回の企画は、V-NET（同志社ボランティアネットワーク）京田辺としての昨年度の活動振り返りにおいて、各団体との交流をさらに深めたいといった意見を元に実現しました。そこで、各団体について知り合える内容を盛り込んだボランティア企画として実行することにしました。

結果は、今回の企画の目的であった各団体の交流を深めるという点では、大学生の参加率が低く、声かけが足りなかったという反省点が出ました。しかし、参加していただいた大学生からは「楽しかった」「新しい企画で初めての人ばかりだけど参加してよかった」とポジティブな意見もいただきました。対象の小学生も、参加し始める前と参加後の表情がガラリと変わりとても満足していただくことができました。

【学生レポート】参加者感想

スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科2年次生 田中 海結

新型コロナウイルスの影響で大学の授業はオンライン形式が大半を占め、同級生と顔を合わせる機会もないなか、普段の生活ではあまり接することのない、子どもたちと交流する今回の企画はとても刺激的だと思い参加させていただきました。企画が始まってすぐの頃は、子どもたち、大学生ともお互い緊張していましたが、すごろくゲームを通して打ち解けることができました。また、竹とんぼ作りでは、子どもたちが竹とんぼを楽しそうに飛ばす様子を見ることができました。今回の企画は子どもたちを楽しませることをコンセプトにしていたのですが、私自身が子どもたちと一緒に遊んで元気をもらい、楽しい時間を過ごすことができ、参加して良かったと感じました。

参加者感想

参加小学生の母親 中平 依子

コロナ禍で異なる年齢の人と関わる機会が少ない状況の中、良い経験になるかと思い参加しました。

ZOOM を使うのは初めてで、上手にコミュニケーションが取れるか不安でしたが、子どもは新しいツールが新鮮で面白かったようで、楽しく取り組んでいました。内容は大学生の方々が創意工夫をこらしてくれました。終わった後には、「いろいろな国の事柄がクイズになっているすごろく」で知った内容を、父親に対してクイズを出したりしていました。

工作も大学生と一対一で教えてもらい、ZOOM でもちゃんと完成させることができました。参加者が少人数だったこともあり、子どもがもじもじしていても、ゆっくり待っていてくださったり、声掛けをしてくれたり、大学生の温かい対応に子どもも本来の自分を少しづつ出せたように感じます。終わった後に「楽しかった！またあったらやる」と言っていたので、参加して良かったなと思いました。

同志社大学京田辺校地ボランティア団体交流会

【学生レポート】活動報告・感想

同志社女子大学学芸学部音楽学科2年次生（PAZMUSICA） 中原 郁李

12月8日に開催された交流会は久々の対面開催であったため、V-NETや各団体について知ってもらうだけでなく、団体内でのつながりを深め、団体を越えた交流を行うことを目的として企画しました。当日はアイスブレイクでの福笑いやプレゼント交換などの季節に応じた企画で且つ対面だからできる企画を取り入れたことで、多くの参加者が交流を深める機会となりました。また、V-NET担当者も役割を細かく振り分けたことで、それぞれの役割を果たすことができたと思います。



【学生レポート】参加者感想

理工学部インテリジェント情報工学科2年次生 橘 龍

自分はV-netクリスマスパーティーの案内を見て、同志社のいろいろなボランティアサークルの方々と交流できると思ったので参加しました。アイスブレイクで福笑いや絵の伝言ゲームで緊張感を溶かして参加者が話しやすい雰囲気が作られたと感じました。自分は近くに座った他の団体のメンバーとお互いの活動について話しました。ボランティアの団体に多くの留学生が活躍されていたのが少し驚きでした。終盤での目玉のイベントであるプレゼント交換は大いに盛り上がりしました。



V-NET 企画 超作戦会議～掴め！新歓成功へのカギ～



【学生レポート】活動報告・感想

理工学部エネルギー機械工学科3年次生（ASUVID京田辺） 正木 研史郎

現在のV-NET所属の団体が抱える問題としては、まずメンバーの数を増やすこと。また、コロナ禍において新歓活動の見通しが立ちにくく準備の相談をできる相手が欲しいということがあります。その問題を解決するために各団体が新歓活動で成功することを手助けするためのイベントを企画させていただきました。

前年度と同じく、各団体が新歓活動で今まで工夫してきたことや、成功してきたことの秘訣、また新入生として参加した側からの感想も聞くことができ、各団体が活かせるようなことを学べたのではないかなと思います。



【学生レポート】参加者感想

同志社女子大学現代社会学部社会システム学科2年次生 大西 瑠香

今回の企画では5団体が集まり、今年度の新歓へ向けた意見交換を行いました。多くの新入生に知ってもらうにはどうすればいいか、コロナ禍でもできることは何か等について話し合うことで、自分たちの団体だけでは思いつかなかった新しい意見を聞き、新歓企画の参考になりました。また他の団体の活動内容について初めて知ることが多く、どの団体もそれぞれの特徴があり、魅力的な団体だと感じました。今回の企画をきっかけに、ボランティア団体同士の横のつながりを作り、多くの新入生にボランティアについて興味をもってもらうことで、同志社大学に所属するボランティア団体の活性化に繋がっていききたいと思います。

国際居住研究会

活動内容

私たちは「世界の誰しにも可能性の開かれたフェアな社会の実現を」という理念を意識し、国内外を問わず、様々な形で支援活動を行っています。主に、フィリピンの女性と子供達への支援や、バングラデッシュの孤児院への支援、農業指導者の育成学校への支援、ビルマ難民への支援、貧困地域への住居支援を、5つのプロジェクトに分かれ行っています。コロナ禍ではオンラインと対面を併用し、支援先との連携をとっています。



【メッセージ】

経済学部経済学科2年次生 寺井 笙真

5つのプロジェクトがあり、様々な考えをもった人たちに会えるのが国際居研究会です！周りから多くの刺激が得られる場所で、大学生活が充実すること間違いなし！皆さん私たちと一緒に活動してみませんか？



STUDY FOR TWO 同志社大学支部

活動内容

私たち STUDY FOR TWO 同志社大学支部は、「勉強したいと願うすべての子どもたちが勉強できる世界に」「大学の教科書をより安価に購入できることが当たり前の世界に」の理念のもと活動しています！大学生から使い終わった教科書を寄付していただき（＝回収）、集まった教科書を定価の半額で販売しています（＝販売）。販売で得た利益は、ラオスやバングラデッシュといった開発途上国の教育支援金として寄付する活動を行っています。



【メッセージ】

文学部英文学科1年次生 鎌込 拓也

私たちの支部では、普段の活動はもちろん、数カ月に1回交流会を開催して仲を深めています！さらに全国に支部があるので、普段は関わる機会のない他大学の学生とオンラインで話したり、実際に会ったりして仲良くなれます！ぜひ私たちと一緒に活動しませんか？

学生団体 CHAD

活動内容

私達はカンボジアを支援している学生団体 CHAD です！年2回カンボジアに渡航し、現地の小学校でボランティア活動を行っています。またカンボジアのプノンペン大学と共に様々なプロジェクトに取り組んでいます。コロナ禍で活動が制限されることもありますが、募金活動や小学校授業を行うなど、現状で自分たちにできる活動を考え、皆で実行しています！



【メッセージ】

商学部商学科1年次生 吉田 龍宇

CHAD は現在 86 名で活動しています。週に1回のミーティングでは、全員で意見を出し合い、目標に向かって活動しています。また、メンバー同士仲が良く、ボランティア活動やイベントを通じて絆を深めています！私たちと一緒に、素敵な大学生活を送りませんか？



学生団体 LUCKY

活動内容

学生団体 LUCKY とは、2014 年よりネパールの子供たちに教育支援を行っている団体です。2014 年より学校建設の為に資金集めを開始し、2019 年春に Moendrodya Secondary School に校舎を建てました。また 2019 年春には Shree Padma Joyti Basic School に 53 万円の教材支援を行いました。2019 年にはクラウドファンディングを行って得た 105 万 6000 円をもとに Shree Matchya Kanya Adalb School に給食支援を行っています。コロナ禍においては、現地とオンライン上で交流するオンラインスタディーツアーを開催しました。

【メッセージ】

法学部法学科 2 年次生 渡邊 竜之介

現在、コロナウイルスの影響でネパールに訪れることは出来ませんが、訪れることができない今だからこそできることを考え日々活動しています。今後は支援だけでなく、現地の人たちとの交流を大切に活動していきます。



ASUVID 今出川

活動内容

ASUVID 今出川は、国際協力・地域活性化・環境保護・子どもの教育支援・減災防災の 5 つの分野にわたって、幅広く多様なボランティア活動をしています。活動場所も京都市内から全国まであり、自分に合ったボランティアからはじめてみる事ができます。去年はコロナ禍で活動が限られていましたが、できることを模索し、活動してきました。実際に現場に行き社会問題に向き合ったり、仲間と何かを成し遂げたり、大学生だからこそできる経験を積むことができます。

【メッセージ】

社会学部社会福祉学科 2 年次生 小島 侑也

ASUVID 今出川は 4 学年 300 人程からなる団体です。やりたい事も人それぞれで、みんなが楽しめる団体です。ボランティアをしてみたい人、友達が欲しい人、まだやりたいことが見つからない人も大歓迎です。私たちと一緒に素敵な大学生活を送りましょう！



同志社ヒーローショー同好会

活動内容

普段は、京都市を中心とした関西圏の幼稚園や小学校、地域のお祭りや福祉施設などの子供たちが集まる場所で、オリジナルのヒーロー「同志社戦隊タナレンジャー」が活躍するヒーローショーやボランティア活動を行っています。また、学園祭では特設のステージで盛大にショーを開催したり、近年は、YouTube でショーやダンス動画を配信するなど、オンライン活動にも力を注いでいます。ショーの活動以外にも合宿やイベントなども行うので、同学年だけでなく先輩や後輩との親睦も深まります。

【メッセージ】

学部経済学科経済 2 年次生 安田 壮佑

私たちは、ヒーローショーを通じて地域の子供たちに笑顔を届けています。またショーだけでなく例年は合宿やイベントも盛りだくさんです。みなさん、私たちと一緒にヒーローになりませんか？



同志社ワーキングコーラス

活動内容

私たちのサークル、同志社ワーキングコーラスは現在、新2回生、新3回生の合計90人で活動しています！自分たちでプログラムを作成し、子どもたちにキャンプを提供することが主な活動です！当日は、運営、進行すべて私たちが行います。他にもハイキングや花背山の家でのボランティア活動、地域のイベントへの協力など様々な活動を行っています！

【メッセージ】

経済学部経済学科2年次生 伊藤 颯生

子どもが好き、キャンプが好き、素敵な仲間に出会いたい、新しいことを始めたい、一つでも当てはまったら、ぜひ気軽に同志社ワーキングコーラス（DWC）に参加してください！



Shinmachi Activate Project (SAP)

活動内容

私たちは新町キャンパス周辺地域の活性化を目的に活動している団体です。同志社大学の学生をはじめ、地域の方々に楽しんでいただけるイベントなどを企画・運営しています。出張キャンドルナイトでは地域の病院や介護施設に出向きキャンドルアートを披露しています。毎年12月に開催している『新町祭』では地域の方々、学生と共に作る関西最大級のキャンドルナイトイベントとして多くの方々にお越しいただいています。

【メッセージ】

政策学部政策学科2年次生 佐々原 悠馬

昨年はコロナ禍においても我々に出来ることを模索し「諦めないSAP」を実現しました。今年は更に地域や他団体との結び付きを強化し、活動を活発化していきたいと考えています。是非、一緒にSAP充しましょう！



同志社 FAST

活動内容

FASTでは、防災知識を蓄え、それを実践できるようにと考え日々活動しています。コロナ禍においても、zoomを活用し定期的にミーティングを行ったり、自分たちだけではなく、学生の方々にも防災について身近に感じてもらうために参加型のプロジェクトなども行ったりしています。さらに京都学生FASTに加盟しているため、他大学との交流をしながら、防災についての知識を深めています。

【メッセージ】

経済学部経済学科2年次生 福手 妃咲

小人数ではありますが、みんなが仲良く、アットホームな雰囲気の中で活動を行っています。災害が多い近年において、自分や家族を危険にさらさないために、楽しみながら防災に関わっていきましょう！



そら

活動内容

子どもたちの保護者と連携しながら、精華町に住む障がいをもつ子どもたちと、調理・工作・外出などの活動を企画・運営しています。また、ひとり親家庭の子どもたちと一緒に勉強したり遊んだりする「学びの広場」という活動もしています。「そら」は2003年に幅広く子ども・子育て支援を行う「NPO法人そら」と連携し、大学の定める正課外活動に関わるガイドラインに沿って、学生だけでなく、困ったときにアドバイスをしてくださるスタッフ（職員）と共に活動をしています。

【メッセージ】

文学部英文学科3年次生 藤本 美奈

「そら」は子どもと学生と一緒に笑える、お互いの楽しい気持ちが重なる素敵な場所です。皆さんも子どもと学生と一緒に過ごす楽しい時間、大学生活で忘れられない大切な思い出を作りませんか？



スポーツボランティア団体 Egg

活動内容

「スポーツで人々を笑顔に」をテーマで子どもたちに楽しく遊んでもらえるようなスポーツを考える、スポーツボランティア団体 Egg です！

子どもたちに自分たちで考えたスポーツで遊んでもらい、スポーツの魅力を伝えています。主にスポーツを通して活動をしている Egg ですが、最近は「もの作り」など、スポーツが苦手な子どもでも楽しんでもらえるように屋内でも活動をしています！

【メッセージ】

法学部法律学科2年次生 増本 圭希

子どもと一緒に遊ぶことがとても楽しい！それだけでなく、その遊びを自分たちで考えることで、人としても成長できることが Egg の魅力です！

また、1.2 か月に一度、大学生だけで遊ぶイベントもあるので仲良くなれます！



Global Baton for Ishinomaki

活動内容

GB は日本人学生と外国人留学生と一緒に活動している国際交流ボランティアサークルです。昨年度もコロナでほとんどのイベントがオンラインになりましたが、対面活動では紅葉狩りといった文化交流イベントや、フードバンクといったボランティアがありました。今年もメンバーがお互いの自国文化をシェアするイベントなどを行う予定です。留学生メンバーがいるという強みを生かし、多文化共生ボランティア団体を目指しています。

【メッセージ】

グローバル・コミュニケーション学部グローバル・コミュニケーション学科4年次生 蔡 紫盈

V-NET の中で、外国人留学生が数多く参加しているボランティアサークルです。国際交流や地域・社会貢献に興味ある方はぜひ、気軽に連絡をください。皆さんの参加を心からお待ちしております！



PAZ MUSICA

活動内容

PAZMUSICA はスペイン語で「平和な音楽」という意味で、赤ちゃんからお年寄りまでの幅広い世代の方と音楽を使っでの交流を中心に活動しています。活動内容は幼稚園や保育園、老人ホームなど様々な場所やイベントでの演奏やレクリエーション、スタッフなどを行っています。昨年度はコロナ禍によりオンラインでの活動が中心でしたが、今年度はオンラインでのご依頼だけではなく対面での活動も少しずつ再開し多くの方と交流を行っています。

【メッセージ】

同志社女子大学学芸学部音楽学科2年次生 中原 郁李

PAZMUSICA は演奏のほかにクイズなどのレクリエーションを取り入れた交流も行っています。ご依頼では参加者の方とともに楽しみながら活動しています。楽器だけではなく、歌や司会など一人ひとりが活躍できる団体です。



ASUVID 京田辺

活動内容

ASUVID 京田辺では災害救援・地域活性化・環境保護・子どもの教育支援・国際協力の五分野を軸に活動しています。昨年度は、子どもたちへの学習支援、子ども食堂の運営補助、京田辺キャンパス近辺での竹林整備、清掃活動、災害についてのワークショップの実施、奈良県明日香村での稲作のお手伝いなどの活動を行いました。

【メッセージ】

理工学部エネルギー機械工学科3年次生 正木 研史郎

京田辺キャンパス最大のボランティアサークルです。京田辺近辺での定期的な活動や長期休暇中での大規模な活動など、日本全国で多種多様な活動を行っています。ボランティアに興味がある方はぜひ ASUVID 京田辺に入会してみてください！



同志社大学 学生支援センター
ボランティア支援室

開室時間 9:00～17:00（平日）

HP <https://volunteer.doshisha.ac.jp/>



今出川校地

〒602-0023 京都市上京区烏丸通上立売下ル御所八幡町103
室町キャンパス寒梅館1F

Tel(075)251-3236 Fax(075)251-3099

Mail ji-volun@mail.doshisha.ac.jp

京田辺校地

〒610-0394 京都府京田辺市多々羅都谷1-3

京田辺キャンパス成心館1F

Tel(0774)65-6777 Fax(0774)65-7024

Mail jt-volun@mail.doshisha.ac.jp